

Japan Clinical Aromatherapy Society Workshop

第3回 日本臨床アロマセラピー学会 ワークショップ in 東京

テーマ： 妊娠・出産・子育て支援

1日目 平成27年5月30日(土)
13:00~21:30(懇親会含む)

2日目 5月31日(日)
10:00~12:00

場所：有楽町朝日スクエア 〒100-0006 東京都千代田区有楽町2丁目5-1
有楽町センタービル・有楽町マリオン11F
懇親会会場：Beer Terrace 1949 HIBIYASAROH 東京都千代田区日比谷公園1-1

もくじ

日本臨床アロマセラピー学会 理事・役員 紹介	2
プログラム DAY 1	3
プログラム DAY 2	4
会場案内	5
講師・コーディネーター 紹介	6
開催にあたって	8
一般演題 ①	9
一般演題 ②	10
一般演題 ③	11
教育講演 ①	13
一般演題 ④	16
一般演題 ⑤	17
一般演題 ⑥	18
教育講演 ②	20
一般演題 ⑦	23
一般演題 ⑧	24
一般演題 ⑨	25
ベビーマッサージ実技	27
イブニングセッション	30
特別講演	31
トリートメント実演 ①	33
トリートメント実演 ②	36

日本臨床アロマセラピー学会

理事・役員 紹介

理事長	助産院菩提樹 所長 大本 千佳
副理事長	宮原レディースクリニック 院長 宮原 英二 ヤナセクリニック 院長 柳瀬 幸子 さめじまボンディングクリニック 院長 鮫島 浩二
理事	山形大学 准教授 藤田 愛 有秋台医院 師長 徳田 真理子 福井クリニック 院長 福井 チナミ 東京大学大学院 准教授 春名 めぐみ
顧問	中井皮膚科 院長 中井 悠齋
監事	大分県日田済生会日田病院 放射線技師長 森下 泰治
事務局	事務局長 齋藤 英彰 副事務局長 森下 潤伊 スタッフ 松岡 晴美 〒360-0033 埼玉県熊谷市曙町1-4-10A
顧問税理士	安井 聡彦

プログラム DAY1

平成 27 年 5 月 30 日(土)

- **開会挨拶** 13:00～
鮫島 浩二(さめじまボンディングクリニック / 医師)
- **一般演題** 13:00～13:25
 - ① 開業助産師のアロマセラピーの取り組み～助産院とクリニックでの実践～
渡邊 節子(わたなべ助産院 / 助産師)
 - ② オレンジスイート精油を使用した足浴実施が入院中の切迫早産患者に及ぼす影響・変化
松本 陽子(さめじまボンディングクリニック / 助産師)
 - ③ 妊娠、出産、育児への継続したアロマケアの報告(実際)
～マタニティーヨガからベビーマッサージまで～
徳田 真理子(有秋台医院 / 助産師)
- **一般演題①～③ディスカッション** 13:25～13:40
- **教育講演 ①** 13:40～14:20
アロマセラピーのエビデンスの探し方、見つけ方
春名めぐみ(東京大学大学院医学系研究科 母性看護学・助産学分野 准教授 / 助産師)
- 休憩(20分) —————
- **一般演題** 14:40～15:05
 - ④ 周術期における芳香療法の導入
宮原 英二(宮原レディースクリニック / 医師)
 - ⑤ 望児外来患者のスイートオレンジ精油を用いた
ハンドトリートメントによる体温変動及び心身の変化
飯島 美紀(さめじまボンディングクリニック / 看護師)
 - ⑥ 産婦人科クリニック内で開催するアロマセラピー教室と子育て支援
柳瀬 幸子(ヤナセクリニック / 医師)
- **一般演題④～⑥ディスカッション** 15:05～15:20
- **教育講演 ②** 15:20～16:00
口からはじめるアンチエイジング ～唾液は健康のバロメーター～
大西 敏雄(つるみ歯科クリニック / 歯科医師)

————— 休憩(20分) —————

- **一般演題** 16:20～16:45
 - ⑦ 望児外来を受診している患者様に寄り添うアロマケア
岩田 理恵(さめじまボンディングクリニック / アロマセラピスト)
 - ⑧ 分娩時のアロマセラピー勉強会を行うことによる看護スタッフの意識変化
伊藤 雅(ヤナセクリニック / 看護師)
 - ⑨ 助産ケアでのアロマトリートメントの活用～助産学専攻科の演習に取り入れて～
奥山 葉子(神戸市看護大学 助産学専攻科 / 助産師)

- **一般演題⑦～⑨ディスカッション** 16:45～17:00

- **ベビーマッサージ実技** 17:00～17:45
コーディネーター: 藤田 愛(山形大学 医学部看護学科臨床看護学講座 准教授 / 助産師)

————— 休憩(15分) —————

- **イブニングセッション** 18:00～18:30
- **特別講演** 18:30～19:30
女性にやさしい妊娠ケア
藤井 知行 先生(東京大学大学院医学系研究科産婦人科学講座 教授 / 医師)

- **懇親会** 20:00～21:30

プログラム DAY2

平成 27 年 5 月 31 日(日)

- **トリートメント実演 ①** 10:00～10:50
妊娠時のアロマケアとトリートメント
コーディネーター: 徳田 真理子(有秋台医院 / 助産師)
- 休憩(10分) —————
- **トリートメント実演 ②** 11:00～11:50
陣痛時におけるトリートメント実技
コーディネーター: 大本 千佳(大本助産所 菩提樹 / 助産師)
- 12:00

- **閉会挨拶**
春名めぐみ(東京大学大学院医学系研究科 母性看護学・助産学分野 准教授 / 助産師)

会場案内



ワークショップ会場

有楽町朝日スクエア

〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町朝日ビル 有楽町マリオン11F

懇親会会場

Beer Terrace 1949 HIBIYASAROH

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-1

講師・コーディネーター紹介

※掲載はプログラム順



鯨島 浩二 (一社)日本臨床アロマセラピー学会副理事長 / 医師

1981年 東京医科大学卒業。東京警察病院産婦人科入局
 1995年 埼玉県大宮市 木野産婦人科副院長
 1998年 埼玉県熊谷市中山産婦人科クリニック副院長
 2006年 さめじまボンディングクリニック開業
 (一社)あんしん母と子の産婦人科連絡協議会 理事長
 NPO法人 国際ボンディング協会 理事長



徳田 真理子 (一社)日本臨床アロマセラピー学会 理事 / 助産師

聖路加看護大学大学院看護研究科ウイメンズヘルス・助産学専攻修士課程修了
 看護師・助産師・保健師
 (一社)日本ヨガ療法学会認定 ヨーガ療法士・IFA 認定アロマセラピスト
 (一社)日本臨床アロマセラピー学会 講師認定・有秋台医院 師長



春名 めぐみ (一社)日本臨床アロマセラピー学会 理事 / 助産師

東京大学大学院にて博士号(保健学)取得。
 現在、同大学院 医学系研究科 母性看護学・助産学分野 准教授。助産師。
 現在の研究テーマは、妊娠・産褥期の栄養・体重、身体活動、産後のボディ・マネジメント、周産期メンタルヘルスなど。
 女性の生涯にわたる健康支援、ならびに母子やその家族にとって魅力的なケアが提供されるように、研究と教育を行なっています。



宮原 英二 (一社)日本臨床アロマセラピー学会 理事 / 医師

1981年 久留米大学医学部卒業
 1981年 久留米大学 産婦人科勤務
 (一社)日本アロマセラピー学会評議員
 宮原レディースクリニック 理事長



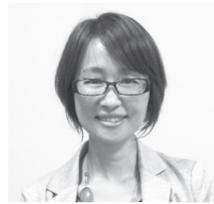
柳瀬 幸子 (一社)日本臨床アロマセラピー学会 副理事長 / 医師

ヤナセクリニック 院長 (<http://www.pmc.or.jp/yanase>)
 医師・医学博士
 日本産婦人科学会認定医
 津市子育て子育て支援会議メンバー
 津市子育て広場支援者交流会メンバー
 NPO法人 国際ボンディング協会 理事



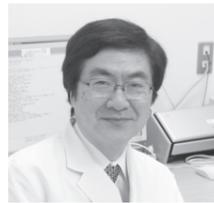
大西 敏雄 つるみ歯科クリニック / 歯科医師

1985年 日本大学歯学部卒業
 1985年 日本大学歯学部小児歯科
 1992年 松本歯科大学小児歯科
 つるみ歯科クリニック勤務



藤田 愛 (一社)日本臨床アロマセラピー学会 理事 / 助産師

山形大学医学部看護学科臨床看護学講座 准教授
 医学博士・助産師・看護師
 NPO法人 国際ボンディング協会副理事長(ベビーボンディングケアインストラクター)
 (一社)日本臨床アロマセラピー学会 講師認定



藤井 知行 東京大学大学院医学系研究科産婦人科学講座 教授 / 医師

1982年 東京大学医学部卒業
 1988年 日本産婦人科学会認定医(現 専門医)
 1989年 医学博士(東京大学)
 2012年 東京大学大学院医学系研究科産婦人科学講座 教授



大本 千佳 (一社)日本臨床アロマセラピー学会 理事長 / 助産師

1984年 京都府立医科大学付属看護専門学校 助産学科卒業 助産師取得
 1995年 日生病院 産婦人科アロマ外来立ち上げ
 2003年 大本助産所「菩提樹」開業
 2013年 (一社)日本臨床アロマセラピー学会 講師認定



一般社団法人 日本臨床アロマセラピー学会副理事長

鯨島 浩二

アロマのためのアロマセラピーではなく患者さんのためのアロマセラピーを

医療や介護の現場でアロマセラピーは役に立つか?答えはイエスである。

現場で実践してきたものたちにとって至極当たり前のことで症例を選べば薬物投与よりアロマセラピーのほうが安全で効果的であったとするものも多々ある。医療機器の高度化が進み診断技術が格段に進歩したものの、患者の体を診たり触ったりすることが少なくなった。ストレス由来の病気がますます増える傾向がある中で、アロマセラピーが”患者を触って診る”という基本的な治療姿勢を取り戻してくれた功績は大きい。

では医療界にアロマセラピーは受け入れられているか?答えはノーと言わざるを得ない。

雑貨である精油は臨床現場での使用実績が少なく、ヒトの疾病に対する治療効果を統計学的に議論するほどのデータの蓄積がなされていないからである。

アロマセラピーは精油の内容成分によりある程度効能を説明出来るため、実証主義的な正統医にも比較的受け入れやすい。また芳香、塗布、内用と応用方法が様々でしかも精油をブレンドして用いる場合も多いため多様な効果が期待されるなど、新しい時代に向けて多くの可能性を秘めた治療法である。ただ体内での成分の代謝やブレンドした際の精油間の相互作用に関して研究を重ねなければならない点も多く、まだまだ慎重に扱わなければならない。

そこで大事なことは、精油やヒトの体に関する基礎知識、病気やその治療法についての深い知識、心身ともに辛い状態に追い込まれている患者さんの心理状態への理解など、幅広い見識を身につけることである。

平成25年、(一社)日本臨床アロマセラピー学会が立ち上がった。発起メンバーはいずれも長年、医療や介護の現場で患者さんに対してアロマセラピーを施すことを模索してきた豊富な臨床経験者たちである。アロマセラピーが「代替医学」(alternative medicine)と称されるためには

- 1) 集められたデータを正しい生物統計学的な解析によって評価する
- 2) データは学会で討論評価する
- 3) 安全性と有効性について検討する
- 4) 「二重盲検法」や多施設共同研究でデータの信ぴょう性・再現性を評価することが求められる。

(一社)日本臨床アロマセラピー学会は安全で効果的なアロマセラピーの使用法の確立に留まらず、きめ細やかな創意工夫やメンタルヘルスケアに至るまで、医療や介護の現場でのアロマセラピーの正しい普及・発展に寄与することを目指している。時代は大きく変わる。安全性に十分留意しつつ、“アロマのためのアロマセラピーではなく、患者さんのためのアロマセラピー”を構築したい。